

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	大阪ガスネットワーク東部事業所建	階数	地上6F
建設地	大阪府東大阪市稲葉	構造	S造
用途地域	準工業地域、準防火地域	平均居住人員	310 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年3月9日
敷地面積	3,804 m <sup>2</sup>	作成者	株式会社竹中工務店 布上 亮介
建築面積	1,889 m <sup>2</sup>	確認日	2023年3月9日
延床面積	8,770 m <sup>2</sup>	確認者	株式会社竹中工務店 布上 亮介



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.3**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.5**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 4.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

**LR のスコア = 4.2**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.9

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.6

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> ①平常時に、日常業務を行うための機能 ②感染症等の流行に対しても、事業を継続して行うための高度なBCP機能 ③大規模災害時に、活動拠点となるための本社代替機能の3つの運用シーンを想定し、必要な機能を有する建物として計画する。		<b>その他</b> ・ガスエンジン発電機からの排熱を温水として回収し、エネルギーの有効活用を図る
<b>Q1 室内環境</b> ・四周すべてをガラス開口とし、外光を存分に取り入れることで、停電時にもほぼすべての場所で最低限の照度確保が可能な計画とする	<b>Q2 サービス性能</b> ・災害時の活動拠点として機能を維持するため、安全性・信頼性、防災性、耐震性を有する計画とする ・設備の更新、修繕の容易性に配慮するとともに、将来的な拡張に対して、柔軟に対応できる計画とする	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> ・敷地周囲に緑地を設けるなど、景観や緑化に配慮した計画とする
<b>LR1 エネルギー</b> ・環境負荷低減技術の導入を図り、環境保全に寄与する施設として計画する ・自然採光、通風といった自然環境を積極的に建物内に取り入れる計画とする	<b>LR2 資源・マテリアル</b> ・雨水を利用し、水資源の有効活用を図る	<b>LR3 敷地外環境</b> ・適切な量の駐車・駐輪スペースを設けるなど交通負荷抑制を配慮した計画とする

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

# 大阪府建築物環境配慮評価システム2018年版 大阪府の重点評価(結果)

受付番号

R4-0167

Osakafu-新築・既存 2018V1.0

【建物概要】	建物名称	大阪ガスネットワーク東部事業所建替プロジェクト					
	建設地	大阪府東大阪市稲葉					
	用途/区分	事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					S	
①	CO2削減					5	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					○	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	○	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

## エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.5	5
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	2.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	3.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	5.0	○
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

## その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		